

- ・問題の作成上、表現・表記をあらためた部分がある。
- ・字数制限は、句読点を含むものとする。
- ・答えはすべて解答用紙に記入すること。

受験番号

□ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

フェルメールは十七世紀のオランダで活躍した画家でした。この時期に活躍したオランダの画家といえば、レンブラントがいます。レンブラントもフェルメールも偉大な画家ですが、ふたりはなにもかもが正反対の画家だったので、比較するととてもおもしろいです。

レンブラントはオランダのアムステルダムという大都会で活躍しました。十七世紀のアムステルダムといえば、今でいうアメリカのニューヨーク、日本の東京、そういう世界の中心となる大都市でした。そして膨大な量の絵を世に残しました。そのなかには自分自身を描いた自画像もずいぶんたくさんあって、自画像だけで一冊のぶあつい画集がシユツパンされているほどです。

A フェルメールはどうかというと、この画家はアムステルダムではなくデルフトという町で活躍しました。デルフトは陶器のセイゾウで知られるけっしてちいさな町ではありませんが、アムステルダムのようなコクサイ都市ではなかったと思います。

またフェルメール作とこんにち伝わる作品は、わずか三十数点。失われた作品もあるとは思いますが、レンブラントのような多作な画家ではなかったのは確実です。

そしてフェルメールには自画像はないとされています。

あるいはまた、さきに言いましたように、フェルメールの絵は、そのほとんどが美しい。レンブラントにも小型の絵はありますが、巨大な名作もずいぶんたくさん残しているんですね。

じつは私、むかし、フェルメールの絵がいいとは思いませんでした。やっぱりおおきい絵を見たときには、「うわあ、こんなデカイ絵が描けるなんてすごい！」とびっくりしましたし、たくさん作品を残した画家を知れば、「うわあ、すごいパワフル！」と圧倒されましたし、ドラマティックではげしい表現を目にしたときには、「うわあ、すごい迫力！」と目をまわしました。パワフルでドラマティックで迫力いっぱいの世界に、私は「美」を見いだしていたのです。

そんな私には、ちいさい絵しかなく、残された絵の数もすくなく、描かれている内容もおとなしいものばかりであるフェルメールは、なんだかたよりなくて、イマイチよくわからなかったのです。

B 最近になってちよつと、いやものすごくフェルメールが好きになってきたのです。なぜかというところ、現代社会が忘れてかけてきている重要な価値を、このフェルメールは思い出させてくれるからなんです。

現代は、なにもかもが「おおきく、おおく、おしゃべりである」ことがもとめられている時代だと思えます。だってそうでしょう、どんどんおおきなビルが建ち、おおくのひとびとがそこにあつまり、ものを買ったたり食事をしたりする世の中です。買ってもらうたり食べてもらうたりしなければいけないので、お店のひとびとは必死で自分の店を売りこまないといけません。だまっついては時代からとり残されてしまいます。どんどんしゃべって自分をアピールしないとダメです。

世の中が元気になるためには、この「おおきく、おおく、おしゃべりである」というやりかたでがんばることももちろん必要でしょう。でも、だとしたら、おしゃべりが苦手なおとなしい人々はどうすればいいんでしょうか。

みなさん、学校でもよく言われませんか。

「自分の考えをしっかり話せるハキハキした人間になりなさい」と。

自分の考えを的確に話せるのはすばらしいことです。でも、だれもがそれができるとはかぎりません。言いたいことがあるのに、うまく言えない、そんな悲しい気持ちも味わったひととすくなくないのではないでしょうか。

C 「こんなことと思います。ひとりひとりしか通れないほそい歩道を歩いていきたいと思います。むこうからもひとがやってきた。こんなとき、あなたならどうしてしますか。

さいきんは道を相手にゆずってあげようというひとはずいぶん減りました。こっちがさきにとおつてやれと足を早め、そうなればどっちがさきにそのほそい道をさきにとおれるか、もう勝った負けたの話になってしまいますよね。

ここには相手に道をゆずろうというハッソウはないのです。なぜか。世の中、おとなしくしていたら損^えなだけだからです。どんどん自己主張することで、相手よりも自分のほうが先んじる。これのよくできたひとが、どうも優秀^{せうゆう}な人間だということになっている。

とまあ、そんなふうを感じつつあった私が、フェルメールの「ちいさく、すくなく、おとなしい」世界にあらためて出会ったとき、私は、「ああ、こんな世界があったんだ」と、なんとというかジーンときたんですね。

D フェルメールはこう教えてくれている。

「おおきくて迫力のあるものもすばらしい。たくさんあってパワフルなものもすてきだ。自分のことをしっかり相手に伝えるためにお話上手になるのもたいせつなことだ。しかしそうでなくても、すばらしいものはある。ちいさいから、いとらしいもの。すこししかないから、ありがたいもの。おとなしくもの静かだから、すがすがしいもの。こういうすばらしさもあるはずだ」私はこういうフェルメールの世界を、「美しい」と思いました。^{*}この本のはじめに、「美」はさまざまと言いました。その意味が、フェルメールの絵から感じとれるのではないでしょうか。

(「美しい」ってなんだろう？美術のすすめ」森村泰昌 ※内容を一部省略した。)

※この本の最初で筆者は「カワイイ」「カッコイイ」「キレイ」も「美しい」世界の仲間であり、その三つの言葉におさまりきらない無限の宇宙としての「美しい」世界があるという内容を述べている。

問一 二重ぼう線部 a ~ e のカタカナを漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

問二 空らん A ~ D にあてはまる言葉を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア つまり イ すると ウ でも エ あるいは オ では

問三 ぼう線部①「現代社会が忘れかけてきている重要な価値」について、後の問いに答えなさい。

1 「現代社会」で優秀とされるのはどのような人間だと筆者は述べていますか。文中の言葉を用いて四十字以内で答えなさい。

2 「現代社会が忘れかけてきている重要な価値」を、筆者はフェルメールの作品からどのように見出していますか。文中から連続する三文で探し、初め終わり五字ずつをぬき出しなさい。

問四 ぼう線部②「フェルメールの『ちいさく、すくなく、おとなしい』世界にあらためて出会ったとき、私は、『ああ、こんな世界があったんだ』と、なんとというかジーンときたんですね」について、後の問いに答えなさい。

1 『ちいさく、すくなく、おとなしい』世界』と対照的な世界を文中から二十五字以内でぬき出しなさい。

2 「あらためて出会ったとき」とありますが、以前にフェルメールの絵を見たときには筆者はどのように感じていましたか。文中から二十五字以内でぬき出しなさい。

問五 次の各文のうち本文の内容にあてはまるものには○、あてはまらないものには×と答えなさい。

- ア フェルメールの絵は小さくおとなしいものばかりであるため、現代社会では求められていない。
- イ 現代は積極的に自分をアピールすることが求められている時代である。
- ウ レンブラントもフェルメールも十七世紀のオランダのアムステルダムで活躍した。
- エ 現代はおとなしくしていたら損をするだけなので、相手に道をゆずる人も減ってきている。
- オ 「おおきく、おおく、おしやべりである」ことがもとめられる現代では、レンブラントの作品が好まれる。

□ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

※1 あつ、白い芙蓉^{ふよう}のようだ。

千絵の笑顔を初めて見た時、そう思った。他人が花に見えたことなんか一度もなかったから、遠子は、少しどきまぎしてしまった。

六月の初め。梅雨のはしりの雨が降っていた。午後の七時に近く、遠子の家の玄関は薄暗かった。チャイムが鳴って、ドアが開く。湿って重い空気が流れ込んできた。遠子は、水槽の金魚に餌をやっていた。床に置かれた水槽には六匹の金魚がいて、投げ込まれた餌に食らい付いていた。

「ごめんくださいよ。おじやまします」

伊岡はきもの店のたづばあさんだった。

「ああ、遠子ちゃん、ちょうどよかった」

ちょうどよかったと言いながら、たづばあさんは口ごもり、遠子の顔と水槽の金魚を（A）見ている。

「わたしに用事ですか？」

「えっ？ああ、そうなんじゃ。あの、これ、マコaの千絵なんじゃけど、今度、うちとここに引き取ることになってな。あんたと同じ六年生じゃけん、仲良くしてもらえたら思うて。ほれ、千絵、入らせてもらい」

玄関のガラス戸の向こうで、影が揺れた。

「こんにちは」

たづばあさんのマコ、千絵と呼ばれた少女は頭をさげ、遠子と目が合ったとたん、（B）微笑ほほえんだ。愛想あいせ笑いには見えなかった。色が白い。丸顔、ちよっと太めの身体、耳の下までのショートボブ。薄暗い玄関で、千絵の笑顔は（C）うきあがつて、見えた。

I

その時、思った。

「まあ、伊岡のおばあちゃん。どないしたん。今時分」

玄関の明かりがついた。母の新子だ。エプロンで手をふきながら、千絵の顔に（D）目をやる。

千絵は笑顔をひっこめて、僅わずかかに頭をさげた。

「北川さん。これな、千絵いうて大阪に出とります息子の辰雄たけお、あれの娘なんですわあ。辰雄が身体悪うして入院したもんで、うちとここにくることになりましたなあ。ここの遠子ちゃんと、同じ年なもんで、仲良くしてもらえたら思いました、ご挨拶あいさつにな」

「まあ、ご丁寧ていねいに。そう、辰雄さんの……。おばあちゃんもたいへんじゃねえ。それで、いつから、学校に？」

「明日から、行かせてもらうつもりです。遠子ちゃん、ほんまによろしゅうな」

たづばあさんの目が、遠子に向けられる。少し潤うるんでいるようだ。

「もちろんやわ。奈津小学校は、六年生は一クラスしかないんやから、どうでも同じ組になるんやし、仲良くするわ。なっ、

遠子」

遠子は、黙もくって千絵から目を逸そらした。水槽の中で、金魚が（E）泳ぎ回っている。水面を指さで弾はいてから、立ち上がった、三人に背を向けた。

「遠子、なんとか言うたら」

母の声こゑが、いらついている。

① うんざりだと思おもった。仲良くしてと頼たのまれて、仲良くできるなら、そこらじゅう仲良しだらけになる。

奈津小の六年生は、二九人。たったそれだけの人数の中に、嫌きらいなタイプの子も、よくわからない子も、気の合わない子もいるのだ。

II

声に出して、そう言ってみようか。

二階に自分の部屋がある。階段の一番下の段に足をかけて、振り返かえり返かえりしてみた。

「ごめんな。六年生になってから、ますますナマイキなまいきになって、このごろぐに、口もきかんのよ」

「ほんまに難むづかしい年としごろになりますもんなあ」

新子とたづばあさんが話している。その後ろで千絵は、また、遠子に向けて微笑ほほえんだ。にっという感じで口が横よこに開く。

遠子はあわてて前を向いた。階段を駆け上がる。七段目のところで、足が滑りひざを打った。じんとしびれた右足を抱えるようにしてベッドに倒れ込む。ふうつと大きな息が出た。

あわてた自分が、ぶざまだと思った。思ったけど、なんだかおかしかった。

足をかかえたままじつとしてしていると雨の音が響いてくる。その響きに混じって、玄関のドアが開く音が聞こえた。窓の外に行ってみる。

たづばあさんと千絵が帰って行くのが見えた。たづばあさんの黒い傘の後ろを千絵のピンクの傘がついていっている。

III

ふつと、そう感じた。けれど、ピンクの傘はまっすぐに門を出て、曲がり角に消えた。

遠子は首を伸ばして、もう少し遠くに目をやった。

(中 略)

「遠子。おりにきて、夕食のしたくぐらい手伝って」

新子の声が出た。ほんの短い時間、眠っていたようだ。

(機嫌、悪いんだろうな)

思ったとおり、新子の機嫌は悪かった。

「まったく、あのタイドは、なによ。伊岡のおばあちゃんはな、こうしてお菓子までもって挨拶にいられたんじやぞ。ほんまに、タイド悪いのも程がある」

小さなクッキーの缶が、テーブルの上に置いてある。遠子は、チョコレートクッキーを一枚、口に入れた。

「遠子」

二枚目のクッキーをくわえたまま、顔をあげる。

新子が、何か呟いた。

「え？なんか言った？」

「うん、あいな」

新子の口調が柔らかなくなる。

「さっきの千絵ちゃん。ほんとに仲良しになってあげられな。かわいそうな子なんじやから」
「かわいそう？」

「そうよ。うわさなんじやけど、辰雄さんはな、アルコール依存症みたいになって、入院してるらしいわ。奥さんとも離婚したらしいで。父親も母親もおらんで、どないに心細いか考えてみいよ。なつ、だから、仲良うしてあげてな。あつ、そうや、一度、夕食にでも呼んであげたらええわ。伊岡のおばあちゃん、子どもの喜ぶような料理、よう作らんじやろし」
② 新子は両手をあわせて、にっこり笑った。

(『あかね色の空』 あさのあつこ 幻冬舎文庫)

※1 芙蓉 … 朝咲いて夕方にはしほむ花。白やピンクの花をつける。

※2 あげられな … あげないと。

問一 二重ぼう線部 a k e のカタカナを漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

問二 空らん A k E に入れるのに最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア すばやく イ ちらちら ウ せわしなく エ ぼんやりと オ にっこり

問三 I に入れるのに最も適切な一文を本文中からぬき出し、最初の五字で答えなさい。

問四 II と III に入れるのに最も適切な一文を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

II. ア わたしには友だちなんていらぬよ。 イ 仲良しなんて、簡単になれるもんじやないよ。
ウ 学校になんか行かないよ。 エ もう、仲良しになつてよ。

Ⅲ. ア あの子、走り出すんじゃないかな。

イ あの子、もどってくるんじゃないかな。

ウ あの子、こつちを見上げるんじゃないかな。

エ もう雨がやんだんじゃないかな。

問五 ぼう線部①「うんざりだと思った。」とありますが、このような「遠子」の反応の理由を大人たちはどのように考えていますか。解答用紙に合うように本文中から六字でぬき出しなさい。

（ ） になつたから。

問六 ぼう線部②「新子は両手をあわせて、にっこり笑った。」とありますが、これはなぜですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア いつもお世話になっているたづばあさんに頼まれて断れなかったから。

イ 遠子に他にもお願いしたいことがあるので、やさしく話しかけようと思ったから。

ウ 親せきの辰雄が困っているので、何とかして助けたいと思ったから。

エ 千絵のことを考えて、どうしても遠子にも協力してほしかったから。

Ⅲ 次のカタカナを漢字に直しなさい。

① 当番イガイは帰ってよい。

② イガイな事実を耳にする。

③ 五人イジョウ集まった。

④ イジョウ気象が発生している。

⑤ サインの設備をととのえる。

⑥ サインの注意を払う。

⑦ 新しい文化や価値をソウゾウする。

⑧ 未来の姿をソウゾウする。

Ⅳ 次の熟語の反対の意味になる語を、後の漢字を組み合わせて作りなさい。

① 失敗

② 安全

③ 単純

④ 平和

⑤ 現実

⑥ 原因

⑦ 過去

複	險
未	成
雑	想
戦	果
理	危
功	結
来	争